

題材名	「この絵、どうなる? ~瑛九の作品をみて想像しよう!~」【鑑賞】 作品:《青の中の黄色い丸》 瑛九 1957-1958年 他		
ねらい	○瑛九の作品のよさを味わいながら、感じたことを伝える。 ○絵をみて次の展開を想像しながら、作品の空間やストーリーを楽しむ。		
内容	導 入：【美術館紹介】 み る：【対話による鑑賞】 絵の中で起きていることや音などを想像する。 表 す：【音や動きで表現】 絵の次の展開をグループで想像して、身体の動きと音で表現する。 知 る：【瑛九の挑戦】 画家の制作方法の変遷について知る。		
時間	活 動	留意点(※)	準 備
：		※場の設定例 ・実施する教室の窓をカラードタックで演出する。 ・作品の大きさがわかるように、床にビニールテープを貼る。 (259×181 cm)	□モニター □書画カメラ □長机 (材料置き) □子供：教科書 筆記用具
：	導入：【美術館紹介】 3分 近代美術館を紹介する。 「美術館って何があるところかな?」 「美術館も作品です!」「椅子もあるよ!」	  「これ、なあ〜んだ?」	□近美写真 □マリリン写真
：	みる：【対話による鑑賞】 15分 ○瑛九の作品（複製画/パネル）を全体で鑑賞する。 「何が描かれているだろう?」 「何にみえる?」 花、豆、おはじき、花火、宇宙、煙、目玉、たまご… 「どんな音がきこえてきそう?」 ドーン! パチパチ ジャリジャリ 無音 「どんな出来事が起きていると思う?」	※まずはじっとみる時間をとる。 ※どの答えも間違えてではない、思ったことや感じたことを伝えることが大切であることを伝える。 ※子供の気付きや感じたことから鑑賞を進めていく。 ※五感を使って考えられるように促す。特に、音について考えを広げていく。	□パネル □イーゼル □複製画/パネル
：	表す：【音や動きで表現】 15分 ○絵が動いたらどうなるか想像し、身体の動きや道具を使った音で表現する。 「絵が動いたら、どんな動きだと思う?」 うねうね くるくる ほんほん ぼわ〜 らわわ ○班ごとに発表する。 「選んだ作品はどれでしょう?」 発表をみる側は、その動きや音がどの作品を表しているのか考える。	※事前に5〜6人の班に分けておく。 ※3点の作品の中から1点に絞って表現を考える。(他チームに内緒!) ※班の中で、身体の動きで表現する担当と音を出す担当を決める。 ※材料は、切ったり貼ったりするなど手を加えずに出来ることを考える。 ※発表後にどの作品か、他の班の子供に考えさせるが、どのように感じたか、それぞれの思いを知ることが重要であり、正解を出すことが目的ではないことを伝える。	□表現に使う道具・材料 ・紙類(お花紙、片段ボール) ・ビニール袋 ・リボン ・ビニール傘 ・缶 ・ボール 等
：	④知る：【瑛九の挑戦】 8分 ○複製画/パネルで他の作品をみる。 ・色々な作品をつくっている ・色々な道具で挑戦している ・色々な活動をした人	  	□複製画/パネル

～	○瑛九の制作や生き方について知る。 「なぜいろいろなことに挑戦したのだろう？」	※作品の大きさを、床に貼ったビニールテープの四角形で示す。	
	<p>瑛九はこんな人… 本名：杉田秀夫（1911～1960）48歳没 画家だけど、油絵に自信がもてなかった。 絵のヒントにするために、写真や版画など、様々なことに挑戦する。 絵筆の代わり、写真の代わり…新しい表現に出会っても長くは続けず、表現を追い続け、晩年にやっと自分の油絵表現で大成。</p>		
:	<p>絵や工作が苦手でも便利なものが補ってくれる時代、アイデアはかたちにして伝えることができる。しかし、どんなに便利になっても、自分の眼で美しいものや面白いものを発見したり、考え続けたりすることが大事ではないか。</p>		
:	まとめ：4分		
～			
:			
実施日時	年 月 日 ()	準備開始 : ~	
		2校時 : ~ :	組 名
		3校時 : ~ :	組 名
		4校時 : ~ :	組 名
場 所	学校 会場 ()		
人 数	年生	クラス	名+ 名
進 行	美術館：		
当日準備	<input type="checkbox"/> 複製画/パネルをイーゼルに設置し、布で隠す <input type="checkbox"/> 音を出す道具や材料のコーナーをつくる <input type="checkbox"/> 作品の大きさがわかるように、床にビニールテープを貼る。(259×181cm)		
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の感想を書く。 ・他の作品を鑑賞して、身体表現や音で表す。 等 		